



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年11月14日

上場会社名 株式会社エクストリーム 上場取引所 東  
 コード番号 6033 URL http://www.e-extreme.co.jp/  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 佐藤 昌平  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 由佐 秀一郎 (TEL) 03-6673-8535  
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日~平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	1,622	—	232	—	224	—	141	—
28年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 132百万円( —%) 28年3月期第2四半期 —百万円( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	57.52	54.69
28年3月期第2四半期	—	—

(注) 平成29年3月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成28年3月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	1,812	964	53.2
28年3月期	—	—	—

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 964百万円 28年3月期 —百万円

(注) 平成29年3月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成28年3月期数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
29年3月期	—	0.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成28年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。平成29年3月期(予想)の1株当たり配当額につきましては、株式分割を考慮した額を記載しております。なお、平成28年5月13日に公表した1株当たりの予想期末配当金及び通期配当総額の実質的な変更はありません。

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日~平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,441	—	326	—	327	—	210	—	85.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

- 業績予想につきましては、平成29年3月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載しておりません。
- 当社は、平成28年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。このため、1株当たり当期純利益については、当該株式分割の影響を考慮しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名) 株式会社ウィットネスト、除外 1社(社名)

(注)詳細は、添付資料P.5「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご参照下さい。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.5「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご参照下さい。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

29年3月期2Q	2,459,400株	28年3月期	2,452,200株
29年3月期2Q	90株	28年3月期	90株
29年3月期2Q	2,455,382株	28年3月期2Q	2,341,346株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

(注)当社は、平成28年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨ではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

#### ①当期の経営成績

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、資源価格や株価の下落、急速な円高の進行等によって、企業業績の動向に慎重な見方が広がるとともに、個人消費についても力強さを欠くものとなり、依然として景気の先行きは不透明な状態が続きました。

このような環境下、当社を取り巻くエンターテインメント系ソフトウェア業界におきましては、スマートフォンの普及が本格化し、引き続き拡大傾向が続いております。また、スマートフォンにおけるゲーム市場は、平成28年度には9,450億円(出所:株式会社矢野経済研究所「スマホゲーム市場に関する調査結果 2015」)に達すると予想されており、今後も同環境は大きく成長していくことが予想されます。

このような状況下、当社はゲームを中心としたエンターテインメント系企業へ向けた人材ソリューション事業および、パソコン・モバイル・家庭用ゲーム機器向けゲームコンテンツの企画・開発・運営を行うコンテンツプロパティ事業を引き続き積極的に展開し、取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は1,622,189千円、営業利益は232,011千円、経常利益は224,342千円、親会社株主に帰属する四半期純利益は141,228千円となりました。

次に事業別状況について説明いたします。

#### <ソリューション事業>

ソリューション事業は、人材ソリューションサービスおよび受託開発サービスの2種で構成されます。このうち、人材ソリューションサービスは、主にスマートフォンアプリ、ゲームなどのエンターテインメント系企業や金融、商業、サービス業などの企業に対し、プログラミング・グラフィック開発スキル、設計・企画プランニングスキルを持った当社社員(クリエイター&エンジニア)が直接顧客企業に常駐し、開発業務を行っております。受託開発サービスについては、当社社員(クリエイター&エンジニア)が直接顧客企業に常駐し、開発業務を行う場合と案件を持ち帰り、開発～納品～保守・運用を行うケースに分別されます。

当第2四半期連結累計期間においては、スマートフォンを中心とした開発案件における旺盛な需要を背景に受注が順調に拡大いたしました。人材ソリューションサービスにおける稼働プロジェクト数は2,111となり、前年同期比38.6%増となりました。また、4月より子会社化した株式会社ウィットネストのソリューション事業も加わり、業績に貢献いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は1,575,042千円、セグメント利益は454,520千円となりました。

#### <コンテンツプロパティ事業>

コンテンツプロパティ事業は、ゲームサービス、ライセンスサービス、協業開発サービスの3種で構成されますが、当第2四半期連結累計期間においては、前四半期同様、主にゲームサービスに力を入れてまいりました。

ゲームサービスにおいては、「桃色大戦ばいろん・生」(PCブラウザゲーム)、「つみにん〜うみにん大サカス」(スマートフォンアプリ)を運営してまいりました。

「桃色大戦ばいろん・生」については、平成27年12月21日をもってサービス終了した「桃色大戦ばいろん・ぶらす」ユーザーの登録情報および保有データの引き継ぎサービスを行い、「桃色大戦ばいろん・ぶらす」のヘビーユーザーの大半が「桃色大戦ばいろん・生」へ移動しましたが、DAU(1日当たりログイン数)が低調に推移したことから、想定した収益を確保することができませんでした。このような状況を改善すべく、ログインインセンティブキャンペーンや販売商品の見直しなど、可能な限りの施策を行いました。しかし、収益が改善する見込みが立たないことから、平成28年8月8日をもってサービスを終了いたしました。

ライセンスサービスについては、当社保有IPである『桃色大戦ばいろん』『うみにん』において、中国・香港・台湾・韓国・シンガポール・マレーシア・タイ・ベトナム・フィリピン・日本・米国・インドネシア・中東地域でのゲームおよびグッズ化権を許諾するライセンス契約を締結しました。また、株式会社マーベラスが運営するスマホ向け本格オンラインRPG『剣と魔法のログレス いにしえの女神』において、当社保有IPである『超兄貴』とのコラボレーションイベントを実施するなど、話題作りに努めました。

協業開発サービスについては、大手ゲームパブリッシャーからブラウザゲーム開発案件を受注し、売上形成に貢献いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は47,147千円、セグメント損失は9,245千円となりました。ライセンスサービスおよび協業開発サービスについては利益を確保いたしました。ゲームサービスにおいて「桃色大戦ばいろん・生」の売上高減少により、セグメント損失が発生いたしました。

(注) 当社は、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較は行っておりません。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 総資産・負債・純資産の状況

#### (総資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、1,812,580千円となりました。主な内訳は、現金及び預金707,304千円、売掛金399,466千円、のれん227,305千円及び投資有価証券242,228千円であります。

#### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、848,051千円となりました。主な内訳は、未払金277,684千円、社債166,000千円及び長期借入金101,880千円であります。

#### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、964,528千円となりました。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前事業年度末と比べ147,457千円増加し、709,634千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は180,871千円となりました。これは、主に売上債権の増加による資金の減少100,948千円があったものの、税金等調整前四半期純利益224,342千円及び未払金の増加47,460千円などにより資金獲得したことによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は289,958千円となりました。これは、主に連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出243,692千円及び差入保証金の差入による支出44,002千円により資金使用したことによるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は262,302千円となりました。これは、主に配当金の支払額24,401千円があったものの、長期借入金による収入120,000千円及び社債の発行による収入177,984千円により資金獲得したことによるものであります。

(注) 当社は、第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前連結会計年度末との比較は行っておりません。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

ソリューション事業において売上の主要を占める人材ソリューションサービスにつきましては、部門毎の前期末稼働プロジェクト数をベースに、当期採用予定数及び離職率予想などを勘案して算出し、合理的な積み上げ予測に

基づいて推定される収益を予想値としております。具体的には当期首332プロジェクトを起点に、当期末424プロジェクトまで月次稼働プロジェクト数が推移すると見込んでおります。なお、当事業年度9月における月次稼働プロジェクト合計数は、359となっており、当期首月次稼働プロジェクト数から24増加しております。

稼働単価につきましては、期首576千円を起点に期末584千円へ推移すると見込んでおります。なお、当事業年度9月における稼働単価につきましては、587千円となり、期首554千円より33千円の増加となりました。

平成28年4月15日付にて子会社化した株式会社ウィットネスト（以下、子会社）におけるソリューション事業については、子会社が新設分割される以前のピーシーフェーズ株式会社における対象事業の過去の経営成績および現在受注済もしくは受注確度が高いプロジェクトの積み上げによって予想値を算出しております。

コンテンツプロパティ事業につきましては、運営中タイトルと開発進行中タイトルの積み上げにより算出した収益を予想値としております。運営中タイトルは、過去の実績等に基づきプラットフォーム毎に予想値を算出しており、リリース後の時間経過による利用者の減少状況を勘案しつつ、利用者数に対する課金率、課金単価実績を乗じた日次売上を積み上げ、通期の収益を予想値として策定しております。開発進行中タイトルにつきましては、企画段階において、ジャンル、ターゲット、類似タイトル実績などから想定される獲得ユーザー数をベースに、継続率、課金単価、課金率などの要素を試算し、日時単位の売上の積み上げ計画を作成し、通期の収益を予想値として算出しております。

以上の結果から、平成29年3月期の業績予想につきましては、平成28年5月13日の「平成28年3月期決算短信[日本基準]（非連結）」発表時の業績予想から変更しておりません。なお、業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

第1四半期連結会計期間より、株式会社ウィットネストを連結の範囲に含めております。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算方法)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得する建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表への影響は軽微であります。

### (4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)	
<b>資産の部</b>	
流動資産	
現金及び預金	707,304
売掛金	399,466
有価証券	12,342
仕掛品	9,379
その他	40,871
貸倒引当金	△2,617
流動資産合計	1,166,746
固定資産	
有形固定資産	59,660
無形固定資産	
のれん	227,305
ソフトウェア	5,145
無形固定資産合計	232,450
投資その他の資産	
投資有価証券	242,228
その他	111,493
投資その他の資産合計	353,722
固定資産合計	645,833
資産合計	1,812,580
<b>負債の部</b>	
流動負債	
短期借入金	10,000
1年内償還予定の社債	43,000
1年内返済予定の長期借入金	31,240
未払金	277,684
未払法人税等	92,473
賞与引当金	42,670
その他	83,102
流動負債合計	580,171
固定負債	
社債	166,000
長期借入金	101,880
固定負債合計	267,880
負債合計	848,051
<b>純資産の部</b>	
株主資本	
資本金	296,471
資本剰余金	295,179
利益剰余金	391,268
自己株式	△173
株主資本合計	982,746
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	△18,217
その他の包括利益累計額合計	△18,217
純資産合計	964,528
負債純資産合計	1,812,580



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
売上高	1,622,189
売上原価	1,033,472
売上総利益	588,717
販売費及び一般管理費	356,705
営業利益	232,011
営業外収益	
受取利息	1,447
その他	1,103
営業外収益合計	2,550
営業外費用	
支払利息	591
社債発行費	2,015
為替差損	6,071
その他	1,540
営業外費用合計	10,219
経常利益	224,342
税金等調整前四半期純利益	224,342
法人税等	83,114
四半期純利益	141,228
非支配株主に帰属する四半期純利益	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	141,228

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
四半期純利益	141,228
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△9,058
その他の包括利益合計	△9,058
四半期包括利益	132,170
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	132,170
非支配株主に係る四半期包括利益	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	224,342
減価償却費	7,657
のれん償却額	25,256
賞与引当金の増減額(△は減少)	△471
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△3,345
受取利息	△1,447
支払利息	591
社債発行費	2,015
為替差損益(△は益)	5,758
売上債権の増減額(△は増加)	△100,948
たな卸資産の増減額(△は増加)	△9,379
未払金の増減額(△は減少)	47,460
その他	△7,530
小計	189,959
利息の受取額	1,447
利息の支払額	△585
法人税等の支払額	△9,949
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>180,871</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△2,262
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△243,692
差入保証金の差入による支出	△44,002
投資活動によるキャッシュ・フロー	△289,958
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入金の純増減額(△は減少)	5,100
長期借入れによる収入	120,000
長期借入金の返済による支出	△15,040
社債の発行による収入	177,984
社債の償還による支出	△3,500
株式の発行による収入	2,160
配当金の支払額	△24,401
財務活動によるキャッシュ・フロー	262,302
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5,758
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	147,457
現金及び現金同等物の期首残高	562,176
現金及び現金同等物の四半期末残高	709,634

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ソリューション 事業	コンテンツ プロパティ事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,575,042	47,147	1,622,189	—	1,622,189
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,575,042	47,147	1,622,189	—	1,622,189
セグメント利益又は損失(△)	454,520	△9,245	445,274	△213,263	232,011

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用(主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。